

日本クルーズ&フェリー学会メールニュース

## 伊豆諸島アイランドホッピング

### 東海汽船「さるびあ丸」と神新汽船「フェリーあぜりあ」乗船記

2024.7.22 池田良穂

昨年11月、東京の国際クルーズターミナルを会場として日本クルーズ&フェリー学会の総会・講演会を開催し、東京港・竹芝桟橋のターミナル内のレストランで懇親会に参加した後、東海汽船の「さるびあ丸」で、伊豆大島、利島、新島、式根島経由で神津島まで行き、神新汽船の「フェリーあぜりあ」に乗り換えて下田に上陸する船旅を企画していました。しかし、当日の東京は季節風が吹き荒れて、「さるびあ丸」は大島以遠の航海が中止となり、また「フェリーあぜりあ」も欠航ということで、この船旅は残念にも実現しませんでした。

梅雨明けも迫る先週の金曜日から1泊2日の船旅が実現して、このリベンジを果たすことができました。

島名	出港時間	到着時間
大島	5:00	岡田港 13:20
利島	5:15 6:35 6:40	岡田港 12:55 利島港 11:50 11:45
新島	7:30 7:40	利島港 10:55 新島港 10:45
式根島	8:00 8:05	新島港 10:25 野伏港 10:20 10:20
神津島	8:55 9:30	野伏港 9:30

「さるびあ丸」寄港地及び出入港時刻



「フェリーあぜりあ」の航路

「さるびあ丸」の出港は、23時と結構遅い時間です。21時前にターミナルに到着しましたが、「さるびあ丸」の出港の30分前には、三宅島・御蔵島・八丈島航路の「橘丸」が出港するため、竹芝の旅客ターミナルは2隻の貨客船に乗るための乗客で溢れています。

また「さるびあ丸」は伊豆大島から東京に夕刻に戻った後、19時15分発の「東京湾納涼船」を行っており、21時に戻ってきた同船からの乗客が降りてきて、ターミナル内は浴衣がけの若い人々で一気に華やかになりました。浴衣を着ていると乗船料が安くなり、ターミナル内には「ゆかたSHOP」があり、浴衣のレンタル付のプランもあるのだそうです。9月23日まで実施しているそうなので、ぜひ、乗船してみてはいかがでしょうか。ただし予約

をしておく必要があるとのことです。



2隻の貨客船の乗客で賑わう竹芝桟橋の旅客船ターミナルには、東京湾納涼船としての「さるびあ丸」から降りてきた浴衣姿の旅客の姿も。

さて、「さるびあ丸」乗船に当たっては、天気予報で梅雨明けになるであろうことを予測して1週間ほど前にインターネットで予約をしましたが、既に寝台のあるクラスは一杯の状態で、かろうじて特1等の部屋を押さえることができました。4人部屋の2段ベッド部屋で、23,760円と少し高かったですが、しかたがありません。部屋には2段ベッドが2つあり、上段にはそれぞれに専用の階段がついていました。また、トイレもシャワーもあることを考えると高くもないようにも思いました。

22時半に「橋丸」が出港した後で乗船が始まりました。部屋に荷物を置いて、船内を散策。同船には初めての乗船でしたが、公室はほとんどないので短時間で見ることができました。最上階のレストランが24時までオープンしているとのことで、枝豆をつまみにしてビールで1人での乾杯!!出港して、東京タワーやスカイツリーを遠くに眺め、お台場エリアの夜景、イルミネーションされたレインボーブリッジをくぐり、クルーズターミナル、コンテナターミナル、羽田空港を見ながら東京湾へと乗り出しました。この後、川崎、横浜、横須賀の夜景を眺めて、浦賀水道を抜けて太平洋に出るのを見てみたかったのですが、いつもの就寝時間の11時は過ぎており、羽田空港が見えた所でベッドに直行しました。



22時半の出港直前の「橘丸」です。三宅島、八丈島に向います。



出港準備中の「さるびあ丸」。「橘丸」が出港した後、22時半から乗船が始まりました。



特1等のキャビン



レストラン

翌朝、4時半には船内放送があり、定刻の5時に伊豆大島の岡田港に到着すること。すぐに着替えてデッキに上がって、着岸風景を見ました。絶壁の迫る水域で、180°回頭して岸壁に到着しました。岸壁にはパトカーとお巡りさんの姿があり、最初の時には何事かと思いましたが、伊豆の諸島では恒例の風景で、お巡りさんが船のタラップを架ける手伝いしているのも珍しくありません。



伊豆大島の岡田港に早朝 5 時に到着。パトカーもお出迎えです。

さて伊豆諸島の島には、基本的に東西に 2 つの港があり、風と波の状況によって船が到着する港が変わります。伊豆大島では、西側には元町の港があり、西からの風と波が強い時には東側の岡田港に着岸します。たぶん 1000 人近くがここで下船したようです。荷物を詰めた小型コンテナも次々にデリックで降ろされました。20 分ほどで乗下船が終わり、船は出港しました。

大島の北端の岬を廻ると、急に風が強くなり波が高くなりました。大島の三原山は低い雲に覆われてまったく見えませんでした。海は白波だらけになりましたが、船は意外に揺れずに航行しました。まだ季節的に南からのうねりが少ないせいなのでしょう。



伊豆大島の北端を廻って利島に向うと海上は白波がたち、デッキには強風が吹いてました。

利島(としま)には、定刻より 10 分遅れで 6 時半に到着しました。5 分間の停泊で出港。ここで、レストランが朝食のためにオープンしたので、オムライスを頼みました。このレストランは営業時間と準備時間以外は自由に使えるようになっていました。

7 時 40 分には新島(にいじま)に到着しました。150 名以上が下船、コンテナの数も多く、出港は定刻より 20 分遅れの 8 時過ぎでした。

次の式根島では野伏港(のぶし)に着き、200 人以上が下船。港には民宿のバンがたくさん並んでいました。停泊中に、公設連絡船「にしき」が入港してきました。同船は、新島との間を 1 日に 3 往復しています。

式根島の出港は、定刻の 30 分遅れで 8 時 35 分となりました。出港して島影を抜けると、海は白波だらけとなり三角波も現われはじめました。解放されたレストランの窓には、船首

から上がった大きなスプレーがかかるという、なかなか豪快な航海となりました。



利島



利島を出港した頃からレストランがオープン。オムライスを頂きました。



新島



式根島

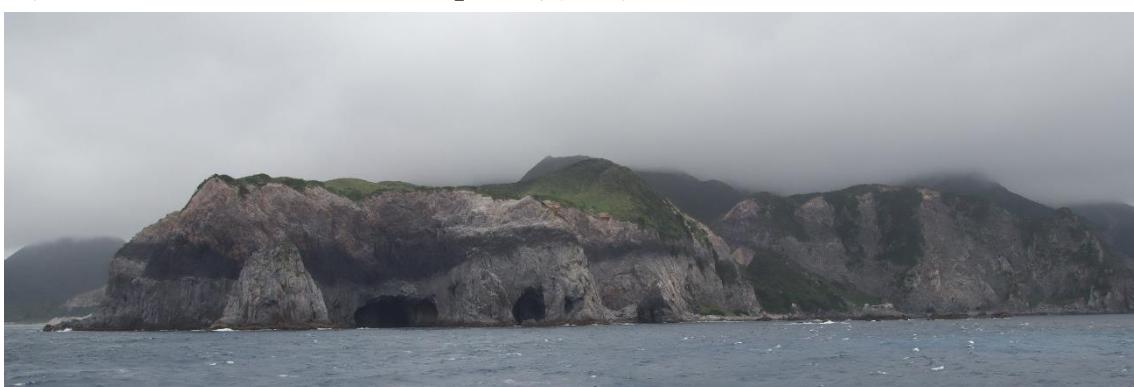


式根島の港に並ぶ民宿の送迎車



式根島と新島を結ぶ公営連絡船「にしき」

神津島に近づくと砂糠(すぬか)岬の、洞窟の点在する岩場を横目に、島の東側の多幸湾の港に、定刻より 25 分遅れの 9 時 20 分に到着しました。ここで下船して、2 時間ほど、下田からの「フェリーあぜりあ」がやってくるのを待ちました。その間、「さるびあ丸」の出港を見送り、ジェットフォイル「大漁」の入出港を見ることができました。



神津島の多幸湾に入る前に砂糠岬の岩礁地帯を通過します。黒い帯のように見えるのが黒曜石層のことです。



神津島の多幸港に着岸する「さるびあ丸」



出港する「さるびあ丸」です。伊豆諸島に寄港しながら夕刻には東京港に戻ります。



多幸港に入港するジェットフォイル「大漁」です。



砂糠岬の岩陰から「フェリーあぜりあ」が姿を現わしました。



波を擧げながら近づいてくる「フェリーあぜりあ」



神津島の多幸港に入港する「フェリーあぜりあ」です。「さるびあ丸」は港の外側の岸壁に着岸しましたが、一回り小型の「フェリーあぜりあ」は内側に着岸しました。



「フェリーあぜりあ」は、下田港を朝9時半に出港して、月・木・土曜日は神津島、式根島、新島に寄港して、16時半には下田に戻る反時計回りの航海、そして火・金・日曜には、逆回りの航海を繰り返しています。水曜は休航です。

この日は土曜だったので、反時計回りの航海日で、下田からは神津島が最初の寄港となり、東京から乗船した「さるびあ丸」が順に寄ってきた島々を、逆の順で新島まで廻り、そこから下田港へと向かいました。

さて、「フェリーあぜりあ」は、大きくピッティングして船首からスプレーがあげながら港に近づいてきました。着岸したのは12時過ぎ。10人くらいが下船して、乗船したのは筆者も入れて2人だけでした。乗客の下船が終わるとすぐに乗船となりましたが、荷物の積み下ろしに時間がかかり、出港したのは定刻より10分遅れの12時20分でした。

船内には大きな窓のある、車椅子、老人、妊婦等用の優先座席があったので、一応、老人の部類には入るのを言い訳にして、そこでゆっくりと過ごすことにしました。最初の区間は、この優先席の利用者は筆者だけでした。

追い波で、白波は比較的短波長だったので、船はほとんど縦揺はせずに式根島まで航海しました。ここで6人が降りて、10人が乗船してきました。



優先座席



案内所



外部デッキの椅子席



船内の自動販売機。カップ麺と飲み物が買えます。

その後、新島、利島に寄り、伊豆半島の先端近くの下田港に向いました。波は正面向波に変わり、波高は3mくらいはありそうで、大きな縦揺れが始まり、船首からのスプレーも周期的になり、豪快になりました。そして下田に近づくにつれて、波は横波に変わり、三角波の様相を呈してきました。

やがて下田の港が見えてきました。がっしりとした防波堤が2重になっており、太平洋の荒波を防ぐ構造となっています。港に入ると左に旋回して岸壁に着きました。隣には海上保安庁の巡視艇が停泊していました。この岸壁からはバスの便もなく、タクシーも待っていませんでした。駅まで徒歩25分くらいかかりそうでした。途中、黒船で来航したペリー上陸記念公園の横を通りました。



入港する「フェリーあぜりあ」船上から眺めた下田の町

下田に宿をとっていたので、チェックインする前に魚市場の近くの道の駅内のお寿司屋で夕食をとつてからホテルに向いました。まどか浜海遊公園に面したホテルには、港全体が見渡せる部屋をお願いしていました。公園には龍馬像が立っていました。翌朝、公園横の桟橋から出港する下田港内の遊覧船「サスケハナ」と、9時半に出港する「フェリーあぜりあ」の出港を見送って、下田を後にしました。



下田港の遊覧船「サスケハナ」です。



9時30分に下田港を出港する神新汽船のRORO/LOLO荷役の「フェリーあぜりあ」の姿です。一番下の写真には神子元島灯台が見えています。